

『二中 校長通信』

No2 R3. 4. 16(金)

目指す生徒像 『○思いやりのある生徒 ○心身を鍛える生徒 ○自主的に学ぶ生徒』

□令和3年度入学式を実施しました！

4月7日(水)、令和3年度の入学式が、163名の新入生を迎えて行われました。緊張しながらも大きな声で返事をし、立派な態度で式に臨んでいました。今後はお子様が中学校生活に早く慣れ、楽しく毎日が過ごせるようになることを心より願っております。



□入学式での校長「式辞」より



(前略)

入学式にあたり、校長先生と3つの約束をしてもらいたと思います。よく聞いて下さい。

1つ目は「かけがえのない自分の命を大切にすること」です。

「かけがえのない」というのは、代わりがないという意味です。一度限りの自分の命を大切にしなければいけません。ゲームのように死んでしまったら、もう一度リセットして、人生をやり直す、ということは絶対にできません。また、みなさんの命は自分だけのものではなく、今まで愛情を込めて大切に育てて頂いたご家族から授かった、大切にたった一つの命であることも絶対に忘れてください。併せて、命を失う危険性が依然として高い、この新型コロナウイルス感染症に対する対策も、一人一人が万全にとってください。

2つ目は、「思いやりと感謝の気持ちを持つこと」です。

これから学校生活を送る上で、大切なことの一つに人との関わり、人間関係作りがあります。人との関わりの中で、相手の思いや考えを理解するとともに、自分のことも理解してもらいます。大切なことは、相手を受け入れよう理解しようという姿勢です。それがあれば、自分の思いは必ず相手に伝わります。「相手を認め、思いやる心」をもって人に接すれば、必ず人の心を動かすことができます。そして、「感謝の気持ちを忘れずに、人に優しくする態度」を、大切にしてください。そうすればいじめのない、誰もが安心して生活することができる、住みよい世の中になるはずですよ。

最後3つ目は、「夢や高い目標を持ち、諦めずに努力すること」です。

夢を諦めず、努力した結果、奇跡の復活を成し遂げた大相撲の照ノ富士のことについて話をします。彼は先日の大相撲春場所で、見事3回目の優勝を果たし、実に約4年ぶりに大関という地位に戻ることができるようになりました。彼はインタビューで、「いろいろなことがあったけど、続けてきて良かった。こうやって笑える日がいつか来ると信じてやってきた。一生懸命やっていれば、いいことがある」と語りました。現在29歳の彼は、若さとパワー怖いものなしで異例のスピード出世で、6年前23歳という若さで大関に昇進しました。あまりの強さとインタビューの時の言葉の横柄さや態度に、当時先生は彼のことがあまり好きではありませんでした。順調に歩んできた彼でしたが、良いことは続かないもので、その2年後、彼は膝の怪我をきっかけに3度の大きな手術と重い病気のため、大関を陥落。その後相撲を取ることができず、幕内、十両、幕下、三段目、序二段と番付を転げ落ちるよう番付を下げていきました。そして彼は、相撲を引退したいと親方に5回ほど直談判をしたそうです。師匠である親方からは、「やめるのはいつでもやめられる。とにかく怪我を治してから考えればいい」と助言を受けました。

それから約3年間、親方の言葉を信じ、赤ちゃんのような伝い歩きから始まり、懸命な治療やリハビリ、トレーニングを重ねました。車椅子に乗れるようになると、次に松葉杖、そして歩けるようになりやっと最近になって相撲が取れるようになりました。

いつの日からか、彼の口からは横柄さは消え、謙虚な言葉を繰り返すようになりました。そんな彼の言動に共感を覚え、先生は彼のことを心から応援するようになりました。そして今回、約4年ぶりに見事大関に戻ることができたのです。そこから学ぶことは、最後まで諦めない気持ちを持つことの大切さです。一年生の皆さんも自分の夢や目標を決して最後まで諦めることなく努力をし続けて欲しいと思います。

(後略)

